

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100493		
法人名	有限会社 大塚台夕月		
事業所名	グループホーム大塚台		
所在地	宮崎市大塚台東1丁目1番地4		
自己評価作成日	令和元年6月10日	評価結果市町村受理日	令和元年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	令和元年7月11日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①個々の状況を職員全員で把握することで、トイレでの排泄支援や、歩行訓練など、自立支援に向けた取組を行っている。食事や更衣など、生活の中の動作をなるべく自身でしていただくことで、利用者の尊厳を大切にケアにもつながっている。体操の時間に、職員を中心に円をかくように座り、全身の体操に加え、季節に合わせた歌を歌ったり、指を使った歌遊び、新聞棒を使ったストレッチなど、バラエティーに富んだメニューを準備し、利用者が楽しく体操に参加できるよう取り組んでいる事も、自立支援につながっている。

②施設が住宅街にあるため、自治会にも加入しており、近隣住民が回覧板を持ってきて下さったり、利用者と一緒に散歩へ回しに行ったりして。散歩などで、近隣へ出かけると、住民の方たちから優しく声をかけて頂いたりしている。運営推進会議では、近隣の方や自治会の方が出席して下さり、地域との関わりが定着してきている。また、毎月傾聴ボランティア・囲碁ボランティアとして、住民の方が来て下さり、顔見知りの関係が出来ている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは高台の住宅街に立地し、近隣にはスーパーや学校、病院等があり、利便性の良好な場所にある。運営者は、開設当初から地域密着型サービスの意義を踏まえて、自治会に加入し、地区の班長を引き受け活動するなど、地域の一員として交流を推進している。また、職員は全員で話し合い作成した理念を職員会議やミーティングで確認、共有し、日々笑顔のあるケアの実践に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の勉強会の場で、職員全員で理念を復唱したり、施設内に数か所掲示したりして、理念を共有できるよう努めている。	職員会議や毎月の勉強会で理念について話し合い、全員が理念を共有し、笑顔を絶やさないケアの実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入することで、回覧板の受け渡しを通して挨拶を交わしたり、地域の中学生やボランティアの方たちの訪問の機会を設けている。	自治会に加入し、地区の班長を引き受け活動するなど、地域の一員として交流に努めている。また、地域の中学生や囲碁、傾聴ボランティア等を受け入れ地域とのつながりを深めるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や、行事ごとに地域の方たちを招いて、利用者との関わりを持つことで、認知症の理解を発信できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族をはじめ、地域住民、地域包括支援センターの職員に参加していただき、運営状況を報告している。	会議では、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策や熱中症予防等について話し合いが行われ、そこでの意見や提案が運営に反映されている。ただ、知見者等メンバーの参加者が少ない。	地域の理解と支援を得るために、地域住民の代表や民生委員等多様な人々に参加を呼びかけ運営推進会議をさらに充実させていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の勉強会に、管理者・ケアマネジャーが参加し、事業所の実情や取組を伝えている。 また、疑問点や問題点の解決に向けて連携できるよう努めている。	市の担当者から、運営上の課題や疑問点等について指導や助言を受けている。また、運営推進会議のあり方について、協働して取り組むなど、協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の勉強会をしているため、職員全員が身体拘束につながる行為や言葉を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は内外の身体拘束の研修会に参加して、身体拘束の弊害を学び理解を深めている。職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでおり、日中は玄関の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修に出向いたり、内部での研修会も定期的に行っている。また、日常生活の中で虐待につながりそうな言動がみられた時は、すぐに注意し合えるような環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員を対象とした積極的な勉強会は行っていないが、対象となる利用者がいたため、2年ほど前から、後見人制度を利用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は、契約書に記載されている内容を一緒に確認しながら、十分な説明を心がけている。また、変更点が生じた際には、速やかに変更点の説明と同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や担当者会議以外の場でも、ご家族からの意見や要望を聞き出せるように、面会時は、連絡を密にするように努めている。また、要望や相談などがあつた際は、一度職員内で検討してから解決するようにしている。	運営推進会議に家族が数名参加して、意見や要望を表せる機会を設けている。また、年に数回、利用者と家族、職員と一緒に食事をする機会を設け、意見や要望を引き出すよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、ほぼ毎日のように施設に出向き、職員の声に耳を傾け、現場の状況を把握するよう努めている。職員から意見や提案があつた際は、管理者と相談し、反映できるよう努めている。	職員会議やミーティングで、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、会議で出た意見や提案を運営に反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や実績を把握し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の勉強会以外にも、事業所が必要とする研修には適任者が受講できるよう勤務の調整をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月のオレンジカフェでは、近隣の介護事業所も参加されるため、利用者はもちろん、職員同士の交流の場にもなっている。また、地域包括支援センター主催のため、相談の場にもなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事前に面談し、ご本人が困らないよう、ニーズは何か、要望は何かを把握するようにし、入所が安心安全にスムーズにいくよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前・入所時に、家族の要望等を時間を取って聞いている。また、家族が話しやすい環境づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の必要としている支援が、事業所での支援では適当ではないと思われた場合、他サービスを勧めることがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日のお茶の時間は、職員も利用者と一緒にお茶を飲むようにしている。そのことで、会話も弾み、本人の希望や要望を聞き出せるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の家族に居室の衣替えや、日用品の補充をしていただくことで、本人の生活を共に支援していく体制づくりに努めている。遠方の家族には、面会時に近況報告をしたり、お部屋で一緒に食事を摂ってもらったりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、なじみの美容室や飲食店などへの外出を行っている。また、昔からの友人が散歩ついでに面会に見えることもあり、居室でゆっくりと話ができるよう支援している。	知人や友人が出来るだけ多くホームに来訪してもらえるよう、雰囲気づくりに努めている。また、家族の協力を得て、馴染みの美容室や外食、買物に出かけるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が、会話したりできるよう支援している。また、日々の体操やレクレーションの場でも交流の場となるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の病院や施設での状況について、ケースワーカーや介護支援専門員に電話等で伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向を傾聴・情報収集して、個別支援に反映できるようにしている。手紙出しや、散髪、外出などの希望に沿えるように努めている。	センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)の一部を活用して、利用者の思いや意向、希望の把握に努めている。また、日々の会話や暮らしの中から、思いや意向を引き出す工夫をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族に状況を伺ったり、前の利用サービス事業所の介護支援専門員に問い合わせをして把握に努めている。また、入所前にセンター方式の記入をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康面・心身状態の変化を観察し、記録してもらったものを見て、状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員に事前にモニタリングを提出してもらい、家族とのケアプラン会前に課題やサービス内容について検討している。また、本人・家族に分かりやすい説明や話し合いができるようにしている。	職員の気づきや本人、家族の意向や希望、関係者の意見を取り入れた介護計画の作成に取り組んでいる。またモニタリングは定期的に行い、介護計画は状況に応じて適切に見直しを行うよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活についての記録やケアプランに対する記録をしている。職員会議で、ケアプランの内容を徹底して話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の心身の変化を見逃さないよう、細かなことについても記録をして情報の共有をしている。特にメンタル面において、家族の定期的な面会や外出をお願いしているケースがある。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「大塚台」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に、訪問美容師や、傾聴ボランティアの方たちが来て下さっている。毎月のオレンジカフェも顔見知りの関係が出来、楽しみの一つになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は、本人やご家族の意向もあり、全利用者が協力医院の往診を受けている。体調不良や、気になる症状がある際や、本人・家族からの希望時は、専門科の受診を行っている。	本人や家族が希望する医療機関での受診を基本としているが、現在は本人や家族の意向により全員が協力医院をかかりつけ医としている。定期的に往診もあり、急変時の対応についても連携できるよう取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員全員で、個々の健康管理ができるよう、排泄や食事量、バイタル値を共有し、細かな変化に気づけるよう、努めている。変化があった際は、申し送りや電話などで、看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の時には、早めに情報提供を送れよう努めている。入院中は、ケアマネジャー・看護師が病院に足を運ぶことで、状況把握と退院に向けての体制づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、終末期に向けた方針や看取り指針の説明を行い、同意を頂いている。また、運営推進会議や担当者会議の場などで、早い段階から終末期のありかたについて話合っている。職員も終末期の在り方について、職場内研修を行っている。	重度化や終末期のあり方については、利用開始時に指針を説明し同意を得ている。本人や家族、医師や職員、関係者と連携して取り組んでいる。見取りの実績もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、交代で応急処置の研修を受講し、緊急時の対応を日頃から意識している。また、職場内研修でも、皮膚剥離や誤嚥時の対応について学び、意識して業務に当たっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回は、地域住民やご家族の協力を頂いて防災訓練を行っている。近隣の喫茶店や住民の方には、消防車が見えたらすぐに応援に駆け付けますと言って下さっている。また、消防設備の点検時に、消火訓練・通報訓練を行っている。	夜間想定も含む防災避難訓練を年2回、近隣住民や家族の協力を得て実施している。避難場所も近隣の団地の駐車場を使用させてもらえることになっており、地域との協力体制の構築に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に、排泄介助時の声掛けや対応の時は、他の方に気づかれないように静かに対応するなどして、プライバシーの保護には意識して支援している。	利用者の人格を尊重し、利用者一人ひとりに寄り添った言葉かけや名前の呼び方等に配慮している。特にトイレへの誘導や入浴時の対応には配慮をして対応するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、日頃から利用者とのコミュニケーションを通して、思いや希望を表現できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々によって、生活のリズムが違うため、その人に合わせた暮らしができるよう支援している。入浴や食事、体操などもその日の本人の体調に合わせて、強制しないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	1人ひとりの個性や希望に応じて、髪型や衣類を決めていただいている。長い髪を結ったり、染髪を楽しまれる利用者もおられ、その人らしさを表現できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご家族の協力の下、本人好みのデザインで、食べやすく、持ちやすい食器を準備し、食事が楽しい時間になるよう努めている。昼食は、職員もなるべく利用者と同じテーブルで食事をし、ゆっくりとした雰囲気ですべてを味わっていただけるよう支援している。	利用者の好みを取り入れ、旬の食材を使ったバランスの良い食事を提供するよう努めている。職員は弁当を持参しているが、利用者と一緒にテーブルを囲んで同じ食事を会話をしながら楽しめる事が出来ないかを現在検討している。	利用者と職員と一緒に同じ食事を味わい、会話を広げながら、食事が楽しいものになるような支援に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を個人記録表に記入し、1日の摂取量が誰が見ても把握できるようにしている。水分摂取は、湯呑の中身がすべて飲みきってから下げように統一している。お茶が飲みにくい利用者には、ジュースなどを常備し、飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせて、糸ようじや舌ブラシを準備し、口腔内を清潔に保てるよう支援している。また、拒否のある利用者や歯周病の気になる利用者は液体歯磨き粉を使用するなどして、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを職員全員で把握し、下着やパットが汚れないように、トイレ誘導を行っている。失敗が多くなってきたときは、その方に合った紙パンツやパットの使用を検討している。	排せつチェック表を活用し、利用者一人ひとりの排せつパターンを把握し、出来るだけトイレで排せつできるよう自立に向けて支援している。また、失敗があった時も周囲に気づかれないように配慮するよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、個々の排泄パターンに合わせて牛乳や乳酸菌飲料などを飲んでいただいている。また、日々の歩行訓練や体操で、運動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日はきまっているが、入浴日以外に体調不良などで入れなかった方には、別日にシャワー浴や、足浴をして清潔保持に努めている。	入浴は基本的には週2回としているが、本人の希望に合わせて柔軟に支援している。その日の体調や入浴を拒む利用者にはシャワー浴や足湯、清拭等に対応し、入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠時間や、リズムを把握することで午睡が長くなりすぎないように支援している。また、日中に歩行訓練やレクリエーションを通して活動することで、夜間に自然と眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬説明書を職員全員が確認している。追加や変更があった時は、看護師が申し送り帳に記載し職員全員が把握している。服薬介助の際は、職員複数名で、名前と日にちを確認し、誤薬予防に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族や本人から、趣味や特技などの情報を集め、裁縫や囲碁、文通、カラオケなど、一人ひとりに応じた楽しみや役割を提供している。洗濯物干しや、テーブル拭き、カーテン開けを日課にされている利用者もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月のオレンジカフェには、2、3名の利用者が出向き、近隣の高齢者との交流の場となっている。その他、希望に合わせて散髪、買物、外食、お墓参りなどご家族の協力を頂きながら支援している。	家族の協力を得て、近隣の散歩や買物、外食、墓参り等出来るだけ戸外に出かけられるよう支援している。また、毎月、オレンジカフェに参加して交流を深めるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、居室に現金を所持されている方もいて、通販などで自由に使われている。管理が難しい方には、事務所で管理している事を説明し、必要なものがある時には買い物や支払いを代行したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	文通を楽しんでいる利用者が、ポストまで歩いて行くことが難しいため、郵便局員の協力を得て事業所の郵便受けに袋を下げ、ポスト代わりとした。遠方のご家族からの電話があった時は、子機を居室にお持ちし、ゆっくりと会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは日当たりが良く、窓際に並んだソファに並んで座って、会話を楽しむ光景が毎日見られる。掲示板には、季節の花や、行事ごとの写真が飾っていて四季を感じられるよう努めている。	換気や温度管理、衛生管理がされ、ホールには七夕飾りや季節の花、写真、利用者の作品等が飾られており、利用者が季節感を感じながら居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、食卓の他にソファを設置し、一人ひとりが安全に過ごしやすいような環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、馴染みのある家具を使用されたり、大切な人との写真が飾られていたり、落ち着いた空間となるよう、家族の協力を得ながら支援している。	家族と相談しながら、利用者の希望や個性を生かした部屋づくりを支援している。馴染みの家具や日用品、テレビ、仏壇等が持ち込まれ、安心して居心地よく生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は、個々に応じてベッドの高さや向きを調整し、一人ひとりが安全に過ごせるような環境づくりをしている。		